

あれこれ情報版



新型コロナウイルスの予防接種について、みなさまにはご心配とご不安をおかけしております。自治体によって時期や対象、方法などが様々で、神戸市からの指導も直前まで明確化せず、当院でも戸惑っているところです。



5月17日（月）からは75歳以上の方を対象によいよ予防接種が始まります。ご予約いただいたみなさまには前日に確認のお電話をさせていただく予定です。接種時は、他の診療はできませんのでご了承ください。



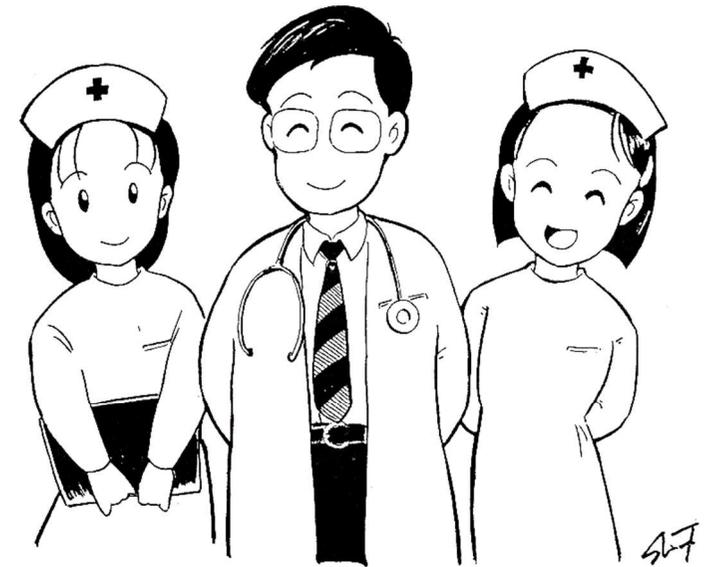
万が一、接種にキャンセルが出た時は、決められた優先順位順にワクチンをお返しします。その節は突然「本日接種のために来院できますか」とお電話する可能性があります。一日でも早く一人でも多く接種ができるよう努めて参ります。



ゴールデンウィークは長崎県の五島列島へ旅行に行く予定でした。しかし連日入って来る予防接種の予約表を見てみると、もし私たちに何かあったら、このみなさんはどうなるんだろう・・・と思い、全てキャンセルしてしまいました。今夏・・・来年・・・行ける日がくるだろうか・・・

すこやか通信

'21 5-6月号 Vol.142



児島医院

内科・循環器内科・小児科・皮膚科

神戸市東灘区深江北町 2-8-26

☎078-431-0696

診察室こぼれ話

今回は腸にできる憩室の話です。憩室とは、腸の壁の脆い部分が、腸の外側へ向かって袋状に飛び出してできたくぼみのことを言います。大腸に限らず、胃、十二指腸や小腸などにもできますが、今回は、比較的頻度の高い大腸憩室と、その合併症の1つである憩室出血、と憩室炎について、お伝えします。

憩室は、腸管内圧が上昇することによって形成されます。後天性のものが多く、食物繊維摂取量の不足や、加齢に伴う大腸の衰え、便秘による腹圧の上昇などが要因として挙げられます。なかでも食生活の影響は大きく、食物繊維が少なく肉中心の食事をよくする習慣の人に多く発生します。

憩室は1つだけの場合もあれば、大腸内に複数形成されることも多く、また年齢が上がるにつれて保有率は増加します。大腸憩室があるだけでは特に症状は出ませんが、細菌感染などが原因で炎症を起こすことがあります。ちなみに日本人の場合、大腸の中でも右側の結腸にできることが多く、年齢が上がるにつれて左側の結腸にも発生する確率が高くなるといわれています。日本人の80%以上では42~60%の人に憩室があるといわれています。

大腸憩室を有していてもほとんどの人は無症状ですが、1年間で0.2%の人が出血し、その3倍の人に憩室炎が起こります。大腸憩室出血は、腹痛を伴わない突然の出血が特徴です。

大腸憩室炎になると、腹痛、発熱が出ます。これは、大腸憩室の中で細菌が繁殖して、炎症を引き起こすことが原因で、憩室内に便が入り込んだりすることがきっかけとなります。

憩室出血に対しては、大腸内視鏡検査でどこから出血しているのかを確認して止血します。出血部位に凝固剤を入れたり、患部を結紮したりします。

憩室炎に対しては、軽症であれば、経口抗菌薬を飲んで治療します。しかし、大きくなって膿瘍といって膿がたまっていたり、患部が破裂して腹膜炎になっている場合は手術になります。

根本的には、大腸憩室ができないように心がけることが重要です。年齢的な要因でできることもありますが、食物繊維が少なく動物性のタンパク質や脂肪が多い食事はリスクを高めるといわれているので、食物繊維を多く含む食べ物を積極的に取り、できるだけ便秘になりにくい体質をめざすことが予防につながります。このように食生活に注意していると治療後の再発予防にもなります。さらに、大腸がん検診で大腸憩室が見つかるケースもあり、定期的に受けて早期発見につなげれば、リスクに備えることができます。

(ドクターズファイルより参照しました)

